

DEMECAL®

商品說明資料

商品ラインナップ（生化学検査）



メタボリックシンドローム & 生活習慣病 セルフチェック

検査申し込み用紙の記入方法

メールで検査結果を見る時などに
問い合わせ番号が必要となります。

初めての方は記入不要です
2回目以降は、前回の結果シート
に記載されているIDを
ご記入いただくと時系列に
検査結果を見ることができます。
※IDの記入がなくても検査はできます。



メールアドレスを記入いただくと
検査完了後、速報として検査完了メールが
届き検査結果を見ることができます。

検査申し込み用紙(返送用)	
検査名	SD0917-1305
検査ID	2010100000123
検査日時 デメカルサポートセンター 0120-100-302 (9:30～17:30 平日のみ)	
① 姓氏	姓: 田中 亮太郎
② 氏名	姓: 田中 亮太郎
③ 性別	男
④ 生年月日	昭和 40 年 11 月 14 日
⑤ 住所	〒103-0021 東京都中央区日本橋 デメカルビル3F
⑥ 電話番号	03-1234-5678
⑦ メールアドレス	sample@leisure.co.jp
⑧ 検査日	2月 1日

生活習慣病+糖尿病 セルフチェック

質問票が同梱されています

質問票							
この質問は、あなたの生活習慣を判断し、今後の健康維持に役立つコメントを作成するためのツールです。 必ず本人が記入し、検査申し込み用紙(返送用)と一緒にご返送ください。							
性別	男						
年齢	cm	体重	kg				
最高血圧	mmHg	最小血圧	mmHg				
※最高血圧を記入された方のみご記入ください。							
下線の欄に該当する回答に□を記入してください。(必ずボールペンでご記入ください)							
Q1	アルコールを飲む習慣がある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ				
Q2	腹痛が多い	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ				
Q3	タバコを吸う	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ				
Q4	運動をする習慣がない	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ				
Q5	現在、既治療中の病気がある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ				
最近、人間ドックや検診を受けた方は、該当する回答に□を記入してください。(必ずボールペンでご記入ください)							
Q6	医療状態	<input type="checkbox"/> 両親なし	<input type="checkbox"/> 生活指導	<input type="checkbox"/> 治療師	<input type="checkbox"/> 再発症	<input type="checkbox"/> 要治療	<input type="checkbox"/> 隔離検査
Q7	肝機能	<input type="checkbox"/> 両親なし	<input type="checkbox"/> 生活指導	<input type="checkbox"/> 治療師	<input type="checkbox"/> 再発症	<input type="checkbox"/> 要治療	<input type="checkbox"/> 隔離検査
Q8	脂質代謝	<input type="checkbox"/> 両親なし	<input type="checkbox"/> 生活指導	<input type="checkbox"/> 治療師	<input type="checkbox"/> 再発症	<input type="checkbox"/> 要治療	<input type="checkbox"/> 隔離検査
Q9	反応	<input type="checkbox"/> 両親なし	<input type="checkbox"/> 生活指導	<input type="checkbox"/> 治療師	<input type="checkbox"/> 再発症	<input type="checkbox"/> 要治療	<input type="checkbox"/> 隔離検査
Q10	腎機能	<input type="checkbox"/> 両親なし	<input type="checkbox"/> 生活指導	<input type="checkbox"/> 治療師	<input type="checkbox"/> 再発症	<input type="checkbox"/> 要治療	<input type="checkbox"/> 隔離検査
Q11	他の	<input type="checkbox"/> 両親なし	<input type="checkbox"/> 生活指導	<input type="checkbox"/> 治療師	<input type="checkbox"/> 再発症	<input type="checkbox"/> 要治療	<input type="checkbox"/> 隔離検査

メタボリックシンドローム & 生活習慣病セルフチェック

生活習慣病+糖尿病セルフチェック

商品説明

メタボリックシンドローム&生活習慣病セルフチェック

【検査項目】

- 栄養状態: 総タンパク(TP)、アルブミン(ALB)
肝機能: AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GT(γ -GTP)
脂質代謝: 総コレステロール(TC)、HDL-コレステロール(HDL-C)、中性脂肪(TG)、LDL-コレステロール(LDL-C)
腎機能: 尿素窒素(BUN)、クレアチニン(CRE)
痛風: 尿酸(UA)
糖代謝: 血糖(GLU)、ヘモグロビンA1c(HbA1c)

内臓脂肪型肥満によって、様々な病気が引き起こされやすくなった状態を「メタボリックシンドローム」といいます。

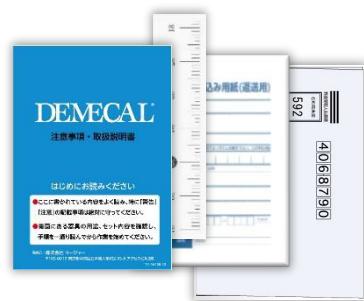
そのメタボリックシンドロームのチェックに加えて、生活習慣病もチェックできる商品です。

腹囲測定用メジャーも付いています。

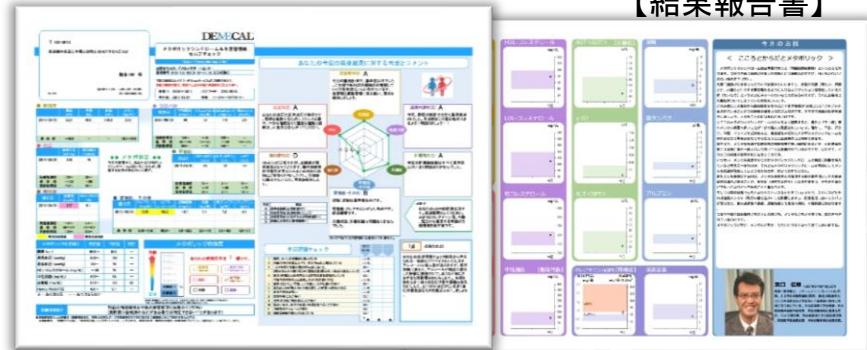
定期的かつ継続した血液チェックをお勧めします。



【質問票】



【結果報告書】



【アドバイスシート】

生活習慣病+糖尿病セルフチェック

【検査項目】

- 栄養状態： 総タンパク(TP)、アルブミン(ALB)
 肝機能： AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GT(γ -GTP)
 脂質代謝： 総コレステロール(TC)、HDL-コレステロール(HDL-C)、
 中性脂肪(TG)
 腎機能： 尿素窒素(BUN)、クレアチニン(CRE)
 痛風： 尿酸(UA)
 糖代謝： 血糖(GLU)、ヘモグロビンA1c(HbA1c)

生活習慣病の中でも特に糖尿病に焦点を当て、ヘモグロビンA1cを追加した商品です。

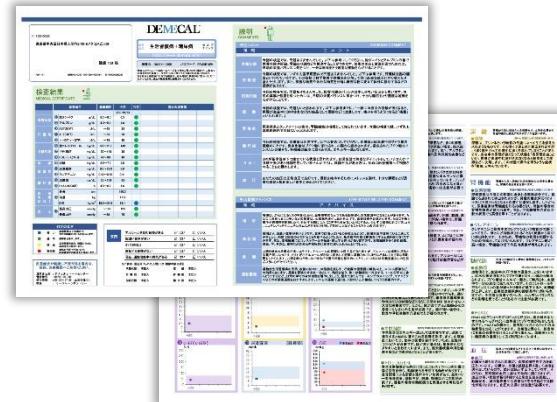
ヘモグロビンA1cは約1~2ヶ月間の血糖値を反映するといわれており、糖尿病のよりよい指標とされています。

糖尿病、またその予備軍は年々増加傾向にあります。

定期的かつ継続した血液チェックをお勧めします。



【結果報告書】



【質問票】

質問票(生活習慣病)						
この質問票はあなたの生活習慣をチェックし、今後の健康管理に役立つコメントを作成するためのものです。 ※必ず本人が記入し、検査申し込み用紙(返送用)と一緒にご返送ください。						
氏名						
身長	cm	体重	kg			
最大血圧	mmHg	最小血圧	mmHg			
下記の質問に答える際に□を記入してください。(必ず1つ以上で記入ください)						
Q1 フルコースを飲む習慣がある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ				
Q2 飲酒習慣が多い	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ				
Q3 タバコを吸う	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ				
Q4 運動をする習慣がない	<input type="checkbox"/> 習慣がない	<input type="checkbox"/> 習慣がある				
Q5 在宅、通院治療中の経験がある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ				
最近、人間ドックや健診を受けた方は、該当する項目に□を記入してください。(必ず1つ以上で記入ください)						
Q6 実施医	<input type="checkbox"/> 病院	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> 公務員	<input type="checkbox"/> 外科	<input type="checkbox"/> 内科	<input type="checkbox"/> 看護師
Q7 病種	<input type="checkbox"/> 痛風	<input type="checkbox"/> 生理不順	<input type="checkbox"/> 治療中	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状
Q8 症状出現	<input type="checkbox"/> 症状なし	<input type="checkbox"/> 生理不順	<input type="checkbox"/> 治療中	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状
Q9 呼吸	<input type="checkbox"/> 症状なし	<input type="checkbox"/> 生理不順	<input type="checkbox"/> 治療中	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状
Q10 食事	<input type="checkbox"/> 症状なし	<input type="checkbox"/> 生理不順	<input type="checkbox"/> 治療中	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状
Q11 便通	<input type="checkbox"/> 症状なし	<input type="checkbox"/> 生理不順	<input type="checkbox"/> 治療中	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状	<input type="checkbox"/> 症状

検査項目説明

【血糖(GLU)】

血糖値とは血液中のブドウ糖の濃度のことです。食後に炭水化物が消化されてブドウ糖になり血液中に吸収されます。血糖値は食後にすぐ上昇するため食事の影響のない食前、あるいは食後3時間以上経過後に検査することが望ましいです。空腹時の血糖値が高い場合は糖尿病の可能性があるため精密検査が必要です。また、極端に血糖値が低い場合はインスリンの過分泌状態も疑われます。糖尿病でなくても、妊娠、ホルモン分泌異常などで高くなることがあります。

【ヘモグロビンA1c(HbA1c)】

血糖値は、食事の影響を受けやすいですが、HbA1cは採血直前の食事などの影響を受けず、約1～2ヶ月間の血糖値の状態をることができます。そのため、糖尿病の検査には欠かせない検査項目の一つです。

【総コレステロール(TC)】

総コレステロールは、血液中の重要な脂質です。主な働きは細胞膜や血管壁を構成します。また、副腎皮質ホルモンや性ホルモンを合成する材料になります。しかし、この値が高くなると動脈硬化が引き起こされる可能性が高くなります。

【中性脂肪(TG)】

中性脂肪はエネルギー源として体に備蓄されます。肥満とは体に余分な脂肪のついた状態をいいますが、この体につく脂肪の大部分が「中性脂肪」です。内臓に沈着すると臓器障害の原因になります。また、血液の中性脂肪が増加した状態が続くと、動脈硬化の危険性が高まります。



【HDLコレステロール(HDL-C)】

血液中の余分なコレステロールを肝臓に運ぶ役割をしています。血液中のコレステロールが増えるのを防ぎ、動脈硬化を予防するといわれており、「善玉コレステロール」と呼ばれています。値が低下している場合は、過食・運動不足・肥満などに影響され動脈硬化の原因となります。

【LDLコレステロール(LDL-C)】

LDLコレステロールはコレステロールを細胞に届ける役割があります。食生活などの生活習慣に影響されやすいといわれています。細胞に必要以上にコレステロールが増えてしまうと、血管を硬化させ動脈硬化を促進させ、心筋梗塞や脳梗塞を引き起こす危険性が高まります。そのためLDLは「悪玉コレステロール」と呼ばれています。



【AST(GOT)】

ASTは肝臓・心臓・筋肉の細胞に多く存在するため、主に肝臓や心臓の状態を把握するために測定されます。肝炎や心筋梗塞、赤血球が壊れたとき、激しい運動後などで高くなることが知られています。ASTが単独で高い場合は、肝機能より、心臓、筋肉、血液系に問題がある可能性があります。

【ALT(GPT)】

ALTは主に肝臓に存在する酵素で、肝細胞が壊れると血液中に出て高い値になります。ASTの値と比較して肝臓病・血液疾患・筋疾患などの鑑別が可能となります。

肝機能の検査



【 γ -GT(γ -GTP)】

γ -GTは主にアルコール性肝機能障害や胆嚢結石などの胆嚢系統の病気や膵臓系統の病気で高くなります。ASTとALTと併せて肝臓機能の状態を把握することができます。一般的に γ -GTはアルコール習慣の指標とされ、禁酒すると2週間後に前回値の1/2程度に改善すると言われています。また、一部の薬剤の服用によっても上昇します。

【尿素窒素(BUN)】

尿素窒素は、血中の尿素に含まれる窒素分を表します。尿素はクレアチニン、尿酸などとともに、含窒素物質の終末代謝産物で、腎臓を介して排泄されます。尿素窒素の検査から腎臓の働きやたんぱく代謝の状態を把握することができます。値が高い場合は腎機能障害や脱水などが考えられます。

【クレアチニン(CRE)】

クレアチニンは、筋肉の中に含まれるクレアチニンという物質が分解されてできた老廃物です。クレアチニンは腎臓へ運ばれて、腎臓の糸球体という場所でろ過されて、直接尿へ排泄されます。このクレアチニンの排泄量は、筋肉の発育(年齢、体重)と運動量に関係するといわれています。値が高いと腎臓機能の低下・筋肉の病気・脱水などが考えられます。

【尿酸(UA)】

尿酸はプリン体という物質が分解してできた老廃物で、血液中の濃度が高くなると、溶けきれなくなった尿酸が結晶化します。尿酸の結晶が痛風の原因になります。プリン体を多く含む食事やアルコールの飲みすぎなどに注意が必要です。



【総タンパク(TP)】

血液中にはいろいろな種類のたんぱく質が含まれており、身体の代謝を助けています。この検査が高くなる場合には、骨髄腫や脱水症状などが考えられます。低くなる場合は、食物から栄養が十分取れていない時、肝臓の病気、糖尿病、腎臓の病気などが考えられます。

【アルブミン(ALB)】

血液中たんぱく質の約65%を占め、栄養分などを全身に運びます。その量や変化の仕方によって病気との関連を調べることができます。アルブミンが増加する病気はあまり知られていませんが、低くなる場合は、栄養不足、消化・吸収の能力の低下、消耗性疾患、肝硬変、ネフローゼなどがあります。アルブミンが少なくなると、栄養が行きわたりにくくなり、疲れやすくなったり、だるくなりやすかったりします。



商品ラインナップ（腫瘍マーカー検査等）

がんリスクチェック（腫瘍マーカー検査）



(男性向け)



(女性向け)



胃がん



ピロリ菌検査

※「胃がんリスクABC分類」と「ピロリ菌検査」は腫瘍マーカー検査ではありません

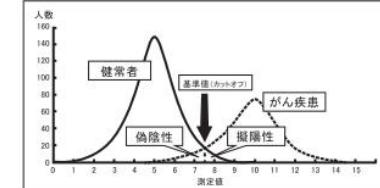
腫瘍マーカー検査に関しては、事前に検査の特徴をご説明しています。

腫瘍マーカー検査はがんの診断をするものではありません。がんリスクのひとつの指標としてご利用下さい。

腫瘍マーカー検査を受けられるお客様へ

本検査を受けられる前に不安や心配に思われていることがありましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

- 腫瘍マーカーが基準値以上になると、がんの可能性が高くなると判断されます。ただし、実際には、検査値が基準値以上であっても問題の無い場合や、良性の疾患でも上昇する場合もあります。
- 腫瘍マーカーが基準値以内の場合では、がんの可能性が低いと判断されます。ただし、がんの可能性を完全に否定できないこともあります。



腫瘍マーカー検査とは、がん細胞から出ている物質を測定することで腫瘍の存在や変化を推定しようとする検査です。ただし、同物質は健常者において良性疾患等で高値となることがあります。またがん患者であっても低値の場合があります。そのため健常者でも基準値を超えることがある一方、がん患者でも基準値以下のことがあります(上図)。

そのため腫瘍マーカー検査のみをもって、がんの判断をすべきではありません。診断は医療機関を受診し、医師による総合的判断が必要です。

— 本検査を受けられるにあたり、以下の点についてご承知おきください。 —

- 1)個人によっては、がんが存在しないにもかかわらず腫瘍マーカー値が上昇する場合や、がんが存在するにもかかわらず腫瘍マーカー値が上昇しない場合があります。
- 2)指先採血では、血液以外の体液(汗、組織液等)及び手指の汚れなどの異物混入が検査に影響を及ぼし検査値が上昇する場合があります。

デメカルサポートセンター ☎ 0120-100-302

がんリスクチェックー 男性向け

【検査項目】 p53抗体、PSA(前立腺がん)

“がんリスクチェックー 男性向け”は、「p53抗体」と、「PSA」を組み合わせて検査します。

「p53抗体」検査は、2007年11月に厚生労働省において大腸がん、食道がん、乳がんの診断に保険適用が認められた腫瘍マーカーです。

また、「PSA」は、近年急上昇している男性特有の前立腺がんのチェックに有効です。

p53抗体では臓器特異性が低いこともあり、陽性時は全身のスクリーニングが必要です。

年齢・性別からある程度高発部位を推定して精密検査を行う必要があるため、結果が陽性の場合は医療機関での総合的な検査を受診されることをお勧めいたします。

血液検査だけではがんの発見・診断・部位の特定はできませんが、がんリスクのひとつの指標としては有効ですので、定期的ながん検診を受診するキッカケしてください。

※腫瘍マーカーが基準値以内の場合では、がんの可能性が低いと判断されます。ただし、がんの可能性を完全に否定できないこともあります。



【結果報告書(両面刷り)】



がんリスクチェック（女性向け）

【検査項目】 p53抗体、CA15-3(乳がん)

“がんリスクチェック 女性向け”は、「p53抗体」と、「CA15-3」を組み合わせて検査します。

「p53抗体」検査は、2007年11月に厚生労働省において大腸がん、食道がん、乳がんの診断に保険適用が認められた腫瘍マーカーです。

「CA15-3」は乳がんに特異性の高い腫瘍マーカーとして利用されています。初期の乳がんではほとんど陽性を示しませんが、ステージが進んでいる場合、転移性乳がんの場合に陽性率が高くなります。再発や内部転移にも反応するため、手術後の経過観察に有用です。

また、p53抗体と組み合わせることで精度が向上するとされています。

p53抗体では臓器特異性が低いこともあり、陽性時は全身のスクリーニングが必要です。

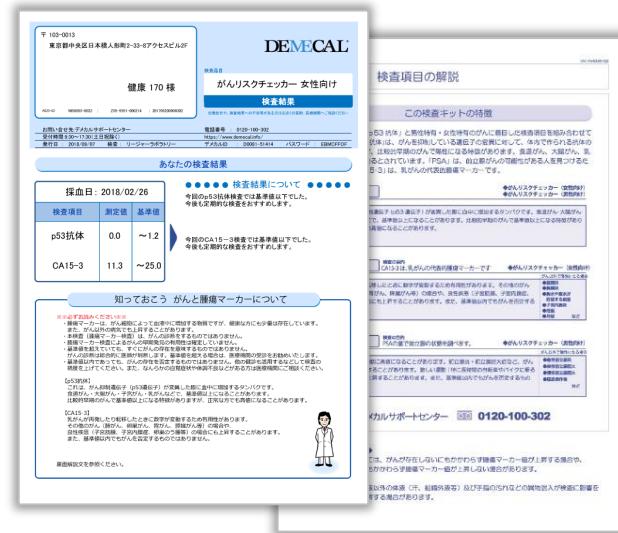
年齢・性別からある程度高発部位を推定して精密検査を行う必要があるため、結果が陽性の場合は医療機関での総合的な検査を受診されることをお勧めいたします。

血液検査だけではがんの発見・診断・部位の特定はできませんが、がんリスクのひとつの指標としては有効ですので、定期的ながん検診を受診するキッカケしてください。

※腫瘍マーカーが基準値以内の場合では、がんの可能性が低いと判断されます。ただし、がんの可能性を完全に否定できないこともあります。



【結果報告書(両面刷り)】



胃がんリスク層別化検査

【検査項目】ペプシノゲン I・II ピロリ菌抗体

ペプシノゲン検査とピロリ菌抗体検査の両方が一度にでき、検査結果より胃がんになりやすい状態を判定するABC分類の判定をお知らせします。

<胃がん発生リスク分類> 参考

	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌抗体	-	+	+	-
ペプシノゲン	-	-	+	+
胃がん発生の危険度	低	➡ 高		

※A群：胃がんのリスクはほとんど見られない状況です

※B群～D群：内視鏡検査等の適切な精密検査と治療を行うことが推奨されています。

※ピロリ菌除菌治療を受けたことがある方は、ABC分類上「E群」に分類されます。除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、ゼロになるわけではありませんので、除菌後も経過観察が必要です。



【質問票】

質問票 胃がんリスク(ABC分類)
【お手元の個人情報、既往歴、飲み物の飲酒利用歴】
性別
年齢
既往歴
既往歴(既往歴持続する場合は、右の箇所に記入してください)
Q1 既往歴(既往歴持続する場合は、右の箇所に記入してください)
Q2 既往歴(既往歴持続する場合は、右の箇所に記入してください)
Q3 既往歴(既往歴持続する場合は、右の箇所に記入してください)
Q4 既往歴(既往歴持続する場合は、右の箇所に記入してください)
Q5 既往歴(既往歴持続する場合は、右の箇所に記入してください)
Q6 既往歴(既往歴持続する場合は、右の箇所に記入してください)



【結果報告書(両面刷り)】

〒100-0013 東京都中央区日本橋人形町2-32-6F (株)リブレー	DEMECAL
検査名 胃がんリスク層別化検査	検査結果
検査日 2015/04/05	検査番号 000-000-000
検査結果 健康 胃がん様	検査結果 胃がんリスク層別化検査
検査結果 検査結果	検査結果 検査結果
あなたの検査結果	
1. ベーシック	
① 検査結果	既往歴
<input type="checkbox"/> 否	既往歴
2. CD-ROM検査結果	
<input type="checkbox"/> 否	既往歴
質問票	
② 質問票	既往歴
<input type="checkbox"/> 否	既往歴
A群	
ABC分類結果	
【ABC分類】	
【ABC分類】	



ピロリ菌検査(胃がんリスクチェック)

【検査項目】 ピロリ菌抗体検査

胃炎や胃潰瘍の原因と言われているピロリ菌の感染をスクリーニング(ふりわけ)する検査です。日本で胃がんの死亡率が高いのはピロリ菌によるものとも言われています。

胃がんは、早期発見できれば5年生存率が90%と高く、早期発見・早期治療が重要だと言われています。

胃の調子が気になる、検査をしたいけど時間がない、バリウムは苦手。
胃カメラはちょっとこわくて…そんな方に自宅でできる胃がんリスクチェックをお勧めします。



【結果報告書】



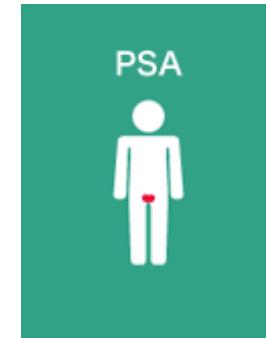
【CA15-3】

CA15-3は、乳がんに特異性の高い腫瘍マークです。ステージが進むほど異常値を示す割合が高くなります。また、p53抗体と組み合わせると精度が向上すると言われています。乳がんの他に、卵巣がん、子宮がん、膵がん、肺がん、胃がん、大腸がんで陽性となる場合があります。また、肝硬変や妊娠などでも上昇する場合があります。



【PSA】

PSAは、前立腺上皮および尿道周囲腺で産生される糖タンパクで、前立腺特異抗原と言われています。名前から推測できるように、PSAは前立腺に特異的で前立腺がんになると血中に増加してきます。そのため、PSAは、前立腺がんの診断や経過観察には非常に有効なマークと言われています。その他、良性疾患ではありますが、前立腺肥大症や、前立腺炎などでも値が高くなることが知られています。なお、近年、わが国における前立腺がん患者の増加率は著しく、増加率は全悪性腫瘍の中で1位になると予想されています。



【p53抗体】

癌抑制遺伝子であるp53遺伝子に異常が起こると、変異したp53蛋白が生じます。p53抗体はこの変異した蛋白に対する抗体です。遺伝子変異での抗体であるため、比較的早期のがんの段階から血液中に出現することになります。p53抗体は、食道がん、大腸がん、乳がん、で陽性率が高いいため、2007年11月から一般医療機関でのがんの診療において保険適応が認められています。

【ピロリ菌抗体検査】

ピロリ菌は胃の粘膜表面に棲みつく細菌です。多くは子供のころに感染し、除菌しない限り胃の中に棲み続け炎症を起こします。この炎症が続くことで慢性胃炎、さらには萎縮性胃炎と進みます。萎縮が進行すると、粘膜に異変が起り胃がんを引き起こしやすい状態になります。ピロリ菌陰性者（菌を持たない人）を10年間観察したところ胃がん発症0%だったのに対し、陽性者（菌を持っている人）は同期間にて胃がん発症2.9%だったという報告があります（Uemura N. et al.: N Engl J Med. 2001; 345(11): 784-9）。

ピロリ菌に感染するとピロリ菌に対する抗体が產生されて血中に出てきます。この数値を測定することでピロリ菌に感染しているかどうかを調べることができます。



【ペプシノゲン I / II】

胃粘膜の萎縮（萎縮性病変）が進むと胃癌になりやすいことが知られています。このペプシノゲン検査法は血液中のペプシノゲンの量を測り、胃の粘膜の萎縮の程度を判定します。ペプシノゲンにはペプシノゲン I (PG I) とペプシノゲン II (PG II) の2種類あり、胃の萎縮状態が進むにつれて血液中のペプシノゲン量は低下していきます。

胃の萎縮度は、PG I の測定結果と PG I / PG II の比率の組合せで判定します。PG I の測定結果が単独で低い場合より、PG I も低かつ PG I / PG II の比も低いという場合のほうが、萎縮度が進んでいる（強度の陽性）といえます。PG II は PG I との比率を出すために測定しますので、単独での測定結果は、さほど重要ではありません。



商品ラインナップ（感染症検査）



HIV



B型肝炎+C型肝炎



B型肝炎+C型肝炎+HIV

事前案内文が同梱されている商品もあります。

HIV抗体検査を受けられるお客様へ

まず始めに、本検査を受けられる前に不安や心配に思われていることがありましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。医療機関による事前相談窓口をご案内いたします。

この製品の検査は、後天性免疫不全症候群（AIDS）の原因となるHIV感染に関して調べるスクリーニング（ふるまい検査）検査で、HIV感染後に体内で作られるHIV抗体を測定します。感染後2～3ヶ月後には、ほとんどの場合で抗体が確認できます。検査をなさる場合は、以下の点にご留意ください。

- HIVに感染して約2ヶ月間は、抗体が確認できないので、感染の心配があったときから2ヶ月後に検査するようにしてください。

- 今回の検査が陰性であって、なお、心配がある方は、さらに2ヶ月後を目処に再検査することをお勧めします。

今回の検査で、陽性の検査結果になってしまっても、実際には感染していない場合があります（注記）。での、陽性の結果が通知された場合は、必ず専門医療機関でHIV確認検査をしていただく必要があります。

また、実際に専門医療機関で感染が確認された場合は、現在のところ尚幼年はありませんが、いくつかの薬を併用することでAIDS発症を抑制し、長期間にわたり健常な人と変わらない日常生活を送ることができます。ですから、陽性判定が通知されても決して悲観せず、早期に専門医療機関での診療を受けてください。

最後に、ご希望される力には本検査結果の通知書がお客様に届けられます。その検査通知書にて電話相談窓口のご案内があります。電話相談窓口では「医療情報を遵守し、直接、医師による医療相談を実施しています。また、専門医療機関の紹介もいたします。一人で悩まないには是非ご相談ください」。

※この検査法では、実際にHIVに感染していないのにHIV抗体が陽性になることがあります。その確率はおよそ100人に1人といわれています。

事前相談窓口のご案内はこちら
デメカルサポートセンター
□□ 0120-100-302

検査申し込み用紙の記入方法

メールで検査結果を見る時などに問い合わせ番号が必要となります。

初めての方は記入不要です

検査結果シートが不要な場合 □希望しないにチェックを入れるとメールの報告のみになります。

メールアドレスを記入いただくと検査完了後、速報として検査完了メールが届き検査結果を見ることができます。

検査名: HIV 検査
検査ID: SU6017-1355
検査料番号: 201201010000123
検査会社: デメカルサポートセンター 0120-100-302 (9:30~17:30 平日のみ)
姓: 田中
名: 太郎
性別: 男
生年月日: 昭和 40 年 11 月 14 日
郵便番号: 101-00217
住所: 東京都中央区日本橋 デメカルビル3F
電話番号: 03-1234-5678
メールアドレス: sample@leisure.co.jp
検査日: 2月1日

HIVセルフチェック

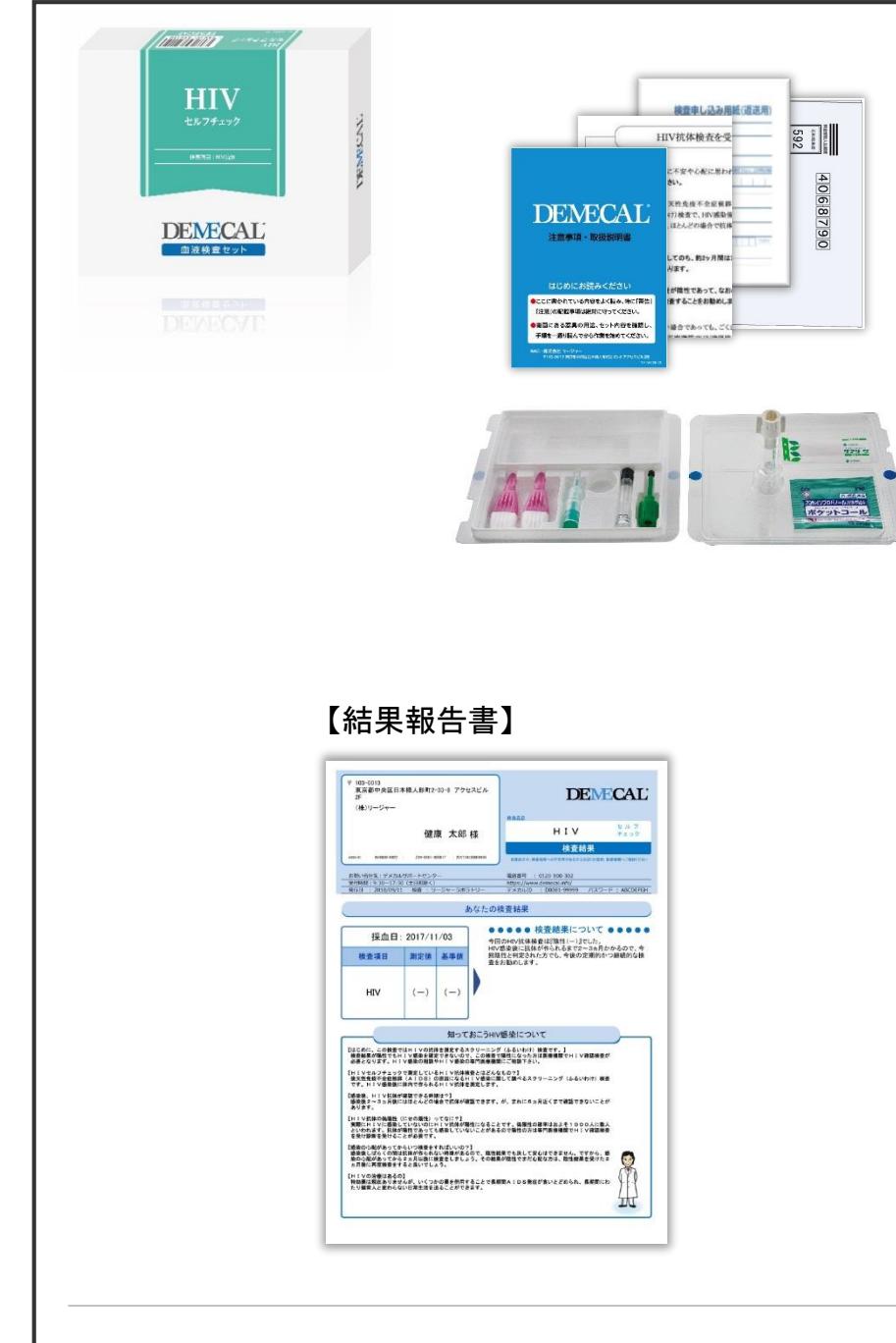
【検査項目】 HIV抗体

HIV：後天性免疫不全症候群の原因ウイルスである

※ Human Immunodeficiency Virus

この検査はHIV抗体スクリーニング検査です。

後天性免疫不全症候群(AIDS)の原因になるHIV感染に関して調べるスクリーニング(ふるいわけ)検査です。HIV感染後に体内で作られるHIV抗体を測定します。



B型／C型肝炎＋HIVセルフチェック

【検査項目】

HBs抗原（B型肝炎ウイルス抗原）
HCV抗体（C型肝炎ウイルス抗体）
HIV抗体

B型、C型肝炎はウイルス性肝疾患で、輸血、注射針の使いまわし、針刺し事故などが原因といわれています。

B型、C型肝炎ウイルス、HIVは主に血液や体液を介して感染します。また、症状が出るまでに時間を要する場合もございますので、特に輸血や手術の経験がある方は、一度は検査してみることをお勧めします。



【結果報告書】



B型／C型肝炎セルフチェック

【検査項目】

HBs抗原(B型肝炎ウイルス抗原)
HCV抗体(C型肝炎ウイルス抗体)

B型、C型肝炎はウイルス性肝疾患で、輸血、注射針の使いまわし、針刺し事故などが原因といわれています。

B型、C型肝炎ウイルスは主に血液や体液を介して感染します。また、症状が出るまでに時間を要する場合もございますので、特に輸血や手術の経験がある方は、一度は検査してみることをお勧めします。



【結果報告書】



【HIV抗体】

HIVに感染すると体内にHIVに対する抗体が產生されるため、血液中のHIVに対する抗体があるかどうかを調べる検査です。

HIV抗体の異常値では、エイズ(後天性免疫不全症候群)が疑われる可能性があります。

【HBs抗原】

HBs抗原とは、B型肝炎ウイルスの外殻を構成するたんぱく質の1つで、B型肝炎の感染の有無を判定する際に調べられます。

肝炎になると、肝臓の細胞が壊れて、肝臓の働きが悪くなります。

肝臓は予備能力が高く、慢性肝炎や肝硬変になっても自覚症状が出ないことが多いことから、「沈黙の臓器」と呼ばれています。

陽性の場合はB型肝炎(急性・慢性)肝硬変、肝がんがあります。

【HCV抗体】

HCVとは、肝炎ウイルスの一つであるC型肝炎ウイルスのことです。ウイルスに感染すると、HCV抗体ができます。測定することでC型肝炎の感染有無を調べることができます。

肝炎になると、肝臓の細胞が壊れて、肝臓の働きが悪くなります。

肝臓は予備能力が高く、慢性肝炎や肝硬変になっても自覚症状が出ないことが多いことから、「沈黙の臓器」と呼ばれています。

陽性の場合は疑われる疾患はC型肝炎(急性・慢性)肝硬変、肝がんがあります。